

講義名	NPO論				授業形態	
担当教員	森脇 丈子	開講期・曜日・時限		前期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
特定非営利活動促進法が成立（1998年）して20年以上が経過し、非営利組織の存在は市民生活の多くの分野に浸透してきています。また、行政や企業との協働といった形もあちこちで見られるようになってきています。 非営利の組織は、学校や福祉、街づくりといった分野にとどまらず、環境や国際協力、文化・芸術の分野にも存在しています。これらの組織は民間企業や行政では取り組めない領域をカバーし、市民の多種多様なニーズに応えるサービスを開いてきており、注目されています。とりわけ、急速な高齢化と人口減少が進む日本社会では、社会における相互の共同がいままでに求められているともいえます。 この授業では、国内的もしくは国際的に活躍するNPOの具体的な活動をとりあげながら、NPOの役割と実際の成果、現状での課題と今後の発展可能性などについて、考えていきます。また、社会的企業についても紹介していきます。 また、毎回の講義の中で受講生と議論をおこないます。						
到達目標						
1. 非営利組織にはさまざまな形があることを理解できる。						
2. 非営利組織と企業との違いについて理解できる。						
3. 非営利組織の運営（活動内容、資金、規模など）と現状での課題について理解できる。						
4. 非営利組織の今後の発展可能性について考え、理解できる。						
提出課題						
課題レポートを出します。このシラバスの「評価基準」をよく読み、第1回授業に出席して授業の進め方等についての詳細説明を聞いてください。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
授業開始時に、前回授業に関して出された質問や意見についてコメントをします。						
評価の基準						
1. 「授業中の発言・態度」… 点数＝15点(1点×15回)						
2. 「課題」… 点数：30点(15点×2回、あるいは、10点×3回)						
3. 定期試験… 点数：55点						
評価は、上記の「1」＋「2」＋「3」の合計点で、評価をします。						
合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。						
履修にあたっての注意・助言他						
・新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や消費者に関連する問題などについて、情報を日々収集しておいてください。						
・第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業の進め方、課題の提出方法、評価基準をしっかりと理解したうえで、受講してください。						
・授業では、かならずメモをとってください(PPT等のスライドによる撮影は禁止します)。						
・関連科目として、次の講義の受講を勧めます。						
「消費文化論」、「生活倫理論」、「経済学入門」、「アミューズメント事業論」、「NPO論」						
教科書						
「使用しない」。						
参考図書						
.20代からはじめる社会貢献。		小暮真久	PHP新書	680	9784569794327	
.ブルー・セクター 引き裂かれた世界をつなぐ起業家たちの物語。		ジャクリーン・ノヴォグラッツ	英治出版	2200	9784862760616	
.紛争地の看護師。		白川優子	小学館	1540	9784093897785	

その他		
・参考文献 ・渡辺由美子『子どもの貧困』2018年、水曜社 ・池上正樹『ルポ ひきこもり未満 レールから外れた人たち』2018年、集英社新書 ・大原悦子『フードバンクという挑戦 貧困と飢餓の間で』2008年、岩波書店 ・村土裕『貧しい市民民を救え！移動スーパーとくし丸の挑戦』、2014年、緑風出版 ・国境なき医師団日本編著(2013)『妹は3歳、村にお医者さんがいてくれたなら。』、合同出版 ・池上彰編(2015)『日本の大課題 子どもの貧困・社会的養護の現場から考える』、ちくま新書 ・岡田(2013)『全米の地の良い道』、講談社 ・藤原信(2022)『そのとき、日本は何人養える？』、家の光協会		
授業計画		
1． 授業ガイダンス：授業の進め方、評価基準について 2． 授業：NPOとは 3． 給食活動のNPO：インド、食の支援：欧州 4． FTT 5． アフリカの鉱物資源と貧困 6． 児童労働 7． 国境なき医師団 8． スポーツを通しての支援活動、地雷撤去 9． フェアトレード 10． フードバンク 11． 農業と地域 12． 社会的企業 13． 「効果的な利他主義」とは何か 14． 日本のNPOの活動状況：マネジメント、資金・寄付・運営、企業や行政との「協働」 15． 投資家の新しい動き：ESG 16． 非営利組織の課題と今後の発展の可能性、定期試験について		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
☐ キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
【予習】授業終了時に、予習について説明します。次回の授業内容に関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時までに済ませておいてください（作業時間：2時間程度）。		
【復習】その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基盤になります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。プリントの最後に、復習問題があります。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。（作業時間：2時間程度）。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。 社会の問題や人びとの抱え方を見ることができ、社会貢献・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
授業中に多くの質問を出します。受講者は、自分の意見を述べてください。		
実務経験の有無及び活用		
備考		
大学の提示にしたがい、感染予防に努めてください。 第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。 授業ではメモをとって、理解を深めてください(スライドによるPPT等の撮影は禁止します)。 出席時に、プリント、新聞記事等を適宜配布します。復習活動等による欠席者は、登壇の授業開始前に前回プリントを受け取ってください。 正当な理由のある欠席については、欠席後10日以内に連絡をしてください。この期間を過ぎた申し出は受け付けません。 授業中の私語や教室への勝手な出入り、スマホ等電子機器の利用を禁止します。 授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。		